

# 2030年までに空母を4隻 アジアの軍事バランス 掌握が狙い。

新年早々に見た「中国の初夢」はアジア太平洋地域での「軍事プレゼンス拡大」の夢だったようだ。

寝ぼけていたとはいえ「2030年までに4隻の空母打撃群を運用する計画がある」とぶち上げた。しかも4隻のうち2隻は原子力空母という。

習近平国家主席は「海洋強国の建設を加速する」と大法螺を吹いている。

アメリカに次ぐ空母大国になれば「地域のパワーバランス」が変わる、と思っているようだ。

まるで21世紀である事に気が付かず14世紀並みの脳ミソであるらしい。



中国遼寧省大連で、進水を目前に控え点検作業が行われる初の中国産空母

旧ソ連の「ワリヤーク」をカジノにするからとウクライナから鉄くずとして購入。ボロボロの船体を「中国式改修」で。気が付けば《中国初の空母「遼寧」》が誕生したのを忘れてはならない。カタパルトがなく戦闘機に十分な燃料もミサイルも積載できない。積載するとスキーのジャンプ台を突破して発艦できないからだ。それでもコケオドシの好きな中国サマは、うすらノロノロと台湾の周りを一周してチンタオ方面に逃げるように帰っていった。その「ワリヤーク」をモデルとし中国国産の空母が遼寧省の大連で初にお目見え、しばらくは、試験運行という。

一方、上海江南造船所で建造されている2隻目の中国国産空母も進水時期が近い。この空母は大連の空母とは設計思想



が違って「最新鋭の電磁式カタパルトの搭載」が計画されている、という。「最新鋭の電磁式カタパルト」とは何のこっちゃ。シナチクの独自技術で造れるものではない。

**電磁式カタパルト** (Electromagnetic Aircraft Launch System, EMALS、イーマルス) とは、「アメリカ海軍」と「イギリス海軍」が共同開発したりニアモーターによって航空母艦から固定翼機を発射するシステムである。

そんな技術がシナにあったのか？あるはずがない。

それではどこの国から盗んだのか？簡単に推測できるのは香港を抑えていたイギリスのキャメロン親中政権の時にイギリス海軍から盗んだものに違いない。

アメリカもイギリスの政権が親中だったら厳しいクレームをつけるべきだ。

尤もアメリカ軍は共同開発したのだから



ら、欠点・弱点も分かっているだろう。海上で対峙するようなことがあれば、たとえば、電力部分を混乱させれば、戦闘機は一機も離艦できないはずだ。

この2隻はいずれも通常動力型だが、大連の造船所で建造される3隻目の空母は原子炉の導入を目指している、との大言壮語が聞かれる。

シナの原子力技術が空母用に展開できるかどうか分からないが、アメリカ並みの原子力空母になるかどうかは、はなはだ疑問。

初の中国国産空母を建造した大連船舶重工の親会社、中国船舶重工は2017年12月の「上海国際海事展」で、原子力を動力とする民用船など4隻の模型を展示した。

「張子の虎」=ハッタリの強い『シナチク』のことである。民用の模型に何の意味があるのか？原子力船は単なる模型であり、それも空母ではないのだ。

「いずれも原子力空母の開発に向けた技



術検証だ」と嘯くが空母の動力が原子力に確定したわけではない。経験も実績もない「原子力動力」が、いきなり「原子力空母」です、とはちゃんちゃら可笑的い。

シナチクくんもさすがに『遼寧』を空母とは認識しなくなったようで「練習艦」としているようだ。

ちなみに中国海軍の「空母打撃群構想」は、米海軍を強く意識したものという。

中国が最も重視しているのは南シナ海からインド洋、中東沖にいたる海域での影響力増大であり、南シナ海を管轄する南海艦隊に重点配備される可能性が高い。

